

公共事業に関する賛否意識の日米英比較

田中 皓介¹

¹正会員 京都大学大学院 助教 都市社会工学専攻 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂)
E-mail: tanaka.kosuke.6k@kyoto-u.ac.jp (Corresponding Author)

日本においては公共事業バッシング世論の存在が指摘されており、多発する豪雨災害への対策をはじめより高度な社会的インフラストラクチャーの構築のためにも、国民の理解をえて公共事業を実施していく必要がある。一方で、諸外国に目を向けると、多くの先進国において公共事業費が増加傾向にあるのに対して、日本の減少ないしは横ばいの事業費推移は特徴的なものである。本研究では、米国および英国との比較から、日本における公共事業に対する世論の特徴を明らかにすることを目的に、各国首都に在住の各 310 サンプルを対象としたアンケート調査を行った。分析の結果、日本の世論の特徴として、非効率さや事業のムダといった否定的論点の影響や、政府や企業に対する信頼の低さの影響が明らかとなった。

Key Words: public opinion, international comparison, scapegoating, questionnaire survey

1. はじめに

土木事業あるいは公共事業は、社会的・経済的基盤を整備し、良質な生活空間の構築や、自然災害に対して安心安全な国土形成のために行われるものであり、現代の日本においても重要な役割を果たしている。特に近年は、毎年のように日本の各地で発生する豪雨災害や、東日本大震災や熊本地震からの復興、今後その発生が予測されている首都直下地震や南海トラフ地震に対する防災事業、さらには 2012 年の笹子トンネルの事故が契機となり顕在化したインフラの老朽化対策など、国を挙げて取り組むべき喫緊の課題も多く見られる。

しかし、近年の日本の公共事業費はピーク時の半分以下の水準に留まっており、真に必要な事業の実施を困難にしていることが懸念される。

その要因として、土木事業に対しては国民が抱いている否定的な印象の影響が挙げられる¹⁾。さらにそうした世論に対して少なからぬ影響力を持つ新聞報道が、公共事業に対して否定的な報道傾向に偏向していることもまた指摘されている^(例えば2),3)。

こうした土木に対する批判の中には、日本では、高度経済成長の時代は終わり成熟した社会に移りつつあるため、拡大的なインフラ投資はもはや不要である、といった論調も散見される。ところが、海外に目を向けると、日本以外の多くの先進国においては、公共投資を削減しているような国は少なく、国の政治的リーダーの発

言等においても、インフラ投資の重要性を訴える声が多数聞かれる⁴⁾。

もちろん各国のインフラ政策は、その国の経済状況や社会状況に合わせて進められるものであり、必ずしも他国が進めているからといって、ただちに自国でも同様に推進すべき、と結論付けられるわけではない。とはいえ、インフラは経済活動を支えるものであり、日本の国際競争力を考えれば、他国の動向も無視できない。

さらに、日本における公共事業を巡る世論の在り方を考えるにあたって、一つ一つの言説の妥当性を検証することが必要なのは論を俟たないが、同時に、似たような経済・社会状況にある他国との比較を通して、日本の世論状況を検証することもまた有用であると考えられる。

そうした中、世論状況の一つとして、Twitter への投稿内容を対象とした研究⁵⁾や、世論形成に影響力を持つ新聞報道内容を対象とした研究⁶⁾で、公共事業に関して国際比較が行われている。

そこで本研究では、公共事業に対する賛否意識のみならず、どのような論点が賛否意識を左右するのかといった心理構造を、国際比較により明らかにすることを目的とする。

2. 既往研究と本研究の位置付け

(1) 公共事業の賛否意識に関する既往研究

日本人を対象とした、公共事業の賛否意識の要因に関する研究として、京都府民を対象とした矢野ら⁷⁾の研究や、矢野らと同様の構図で全国の国民を対象にした水野ら⁸⁾によるものが挙げられる。これらの研究では、公共事業への賛否意識に影響する要因として、肯定的論点や否定的論点のみならず、身近な他者の意見や認知世論、マスコミ賛否など、社会的な要因も考慮している。アンケートデータをもちいた分析結果からは、各種論点のみならず、社会的な要因もまた、個人賛否に対して影響することを示している。

(2) 公共事業を巡る世論に関連する国際比較分析

公共事業を巡る世論について、Sakamoto et al.⁹⁾は日本と米国の新聞報道内容を比較分析し、日本の新聞報道は米国の新聞報道に比べて、公共事業に対して否定的な論調であることを明らかにした。

さらに、田中ら¹⁰⁾は、人々の意見を一定程度反映していると想定される Twitter に投稿された内容を日米で分析し、日本では、災害や不正、予算編成などを契機に、公共事業に対する関心が高まる一方で、米国においては大きく関心が集まるようなことはなく、また、日本のような土木に対して一方的に否定するような意見も見られないことを明らかにしている。

(3) 本研究の位置付け

以上で示した通り、日本人を対象として、公共事業に対する賛否意識の構造を詳細に分析した研究がなされている。一方で、それらの意識を比較した研究としては、新聞報道や、Twitter の投稿における単語を対象としたものなど、表面的な分析に留まっており、詳細な論点認知や心理要因を国際比較した研究は筆者の知る限り存在しない。

そこで本研究では、矢野ら⁷⁾や水野ら⁸⁾のものを参考にして、公共事業に対する賛否意識構造を想定し、その構造の違いを国際的に比較することで、日本における公共事業に対する世論の特徴を明らかにすることを目的とする。

3. 調査

(1) 調査概要

比較対象国として、日本と同様に、民主主義国家である先進国として、米国と英国を選定した。なお、それぞれの国においても、都市部と地方部ではインフラ整備の格差等の要因で、公共事業に対する意識が異なることも想定されるため、都市部の住民を対象とした。具体的には、それぞれの国の首都在住者であり、日本は東京都、

米国はニューヨークシティ、英国はグレーターロンドンの居住者を対象とした。

サンプル数については、性別 2 水準 (男/女)、年代 5 水準 (20 代/30 代/40 代/50 代/60 代) の、10 個の属性それぞれ 31 サンプルずつ、各国 310 サンプルずつを確保した。

調査はインターネット調査会社を利用し、日本は 2021 年 5 月 7 日から 2021 年 5 月 11 日、米国は 2021 年 5 月 17 日から 2021 年 6 月 1 日、英国は 2021 年 5 月 25 日から 2021 年 6 月 8 日の期間に実施した。

(2) 調査項目

a) 具体的建造物の認識

公共事業が何を做什么ののかの認識を問うため、「政府によるインフラ整備事業である「公共事業」についてお聞きします。公共事業は何を造るものだと思いますか。(最も強くイメージするものを最大で 3 つ選択してください)」という設問を設定し、「道路/鉄道/橋/パイプライン/運河/港/空港/広場/公園/ビーチ/上下水道/電力供給施設/ダム/堤防/学校/病院/その他」の選択肢一覧から (順番はランダム化)、回答を要請した。

b) SD 法によるイメージ調査

公共事業に対する直観的なイメージを、SD 法によって問うため、「『公共事業』についてどのような印象を持っていますか? 以下のそれぞれの形容詞対のどちらに近いのか、直観的にお答えください。」という設問を設定し、出現順序をランダム化した 15 の形容詞対 (A:B=きれいな:汚い/上品な:下品な/危険な:安全な/好きな:嫌いな/公正な:不公正な/固い:柔らかい/複雑な:単純な/がさつな:繊細な/はっきりした:曖昧な/にぎやかな:さびしい/静的な:動的な/地味な:派手な/つめたい:あたたかい/知的な:野蛮な/新しい:古い) のそれぞれに対して、「1:とても A な感じがする~7:とても B な感じがする」の 7 件法で回答を要請した。

c) 論点認知

矢野ら⁷⁾や水野ら⁸⁾の既往研究で用いられていた論点を引用し、「政府によるインフラ整備事業である「公共事業」についてお聞きします。以下のそれぞれの項目について、あなたの考えに近いものを回答してください。」という設問を設定し、「公共事業は人々の意見を尊重していない/公共事業は特定の関係者の利益のために行われている/公共事業は公正な決め方で何を造るか決めていない/公共事業は実施方法が非効率である/公共事業は役に立たないものを造る/公共事業は自然環境を破壊している/公共事業は政府の財政を圧迫している/公共事業は人々の快適な暮らしに役立つ/公共事業は人々の生命と財産の安全に役立つ/公共事業は雇用の促進 (=

失業率の削減)に役立つ/公共事業は国の経済に貢献する/公共事業は美しい国土づくりのために必要/公共事業は私たちの世代にとって必要/公共事業は子どもや孫の世代にとって必要」という 14 個の各論点について、

「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請した。

d) 賛否意識

公共事業に対する個人賛否および認知世論を問うため、「あなたは政府の「公共事業」を支持しますか。/あなたから見て、世間の人々は政府の「公共事業」を支持していると思いますか。/あなたから見て、新聞やテレビは政府の「公共事業」を支持していると思いますか。/あなたから見て、身近な人々は政府の「公共事業」を支持していると思いますか。」という 4 つの設問それぞれについて、「1: 強く反対~7: 強く支持」の 7 件法で回答を要請した。

e) 関係者に対する意識

公共事業に対する賛否意識は、実施主体に対する信頼が影響することが指摘されていることから、そうした意識を問うため、「あなたは、公共事業を行う政府は、誠実だと思いますか。/あなたは、公共事業を行う建設企業は、誠実だと思いますか。/あなたは、公共事業を行う建設労働者は、誠実だと思いますか。/あなたは、公共事業を行う政府のことを、よく知っていると思いますか。/あなたは、公共事業を行う建設企業のことを、よく知っていると思いますか。/あなたは、公共事業を行う建設労働者のことを、よく知っていると思いますか。/あなたは、公共事業を行う政府を信頼できると思いますか。/あなたは、公共事業を行う建設企業を信頼できると思いますか。/あなたは、公共事業を行う建設労働者を信頼できると思いますか。」という設問それぞれに対して、「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請した。

f) スケープゴートの意識調査項目

公共事業バッシングが、スケープゴート心理的傾向によって生じている可能性を検証するために、以下の設問を設けた。

スケープゴート心理は何かしらの不安が生じたときに、たとえそれが不合理であろうと、何者かに責任を帰属することで安心感を得ようとするものである⁹⁾。

そこで、バッシング心理の起点となる不安を測定するために、「あなたは、全体として現在の生活に満足していますか。」という設問に「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請するとともに、「あなたの生活は、この先 10 年くらいで、どうなっていくと思いますか。/我が国の経済は、この先 10 年くらいで、どうなっていくと思いますか。/我が国の「インフラ投資」は、この先 10 年くらいで、どうなってい

くと思いますか。」という 3 つの設問それぞれについて、「1: 大きく後退する~7: 大きく進歩する」の 7 件法で回答を要請した。

さらに、精神分析理論による説明によれば、自分の中にある邪悪な思考や感情を、他の弱者に投影して非難することで、自分が理想的人間であると思込もうとする。そのため、自身の人生に対する考え方を、「あなたは、もっと効率的に生きるべきだと思いますか。/あなたは、もっと誠実に生きるべきだと思いますか。/あなたは、もっと自然環境にやさしく生きるべきだと思いますか。」という設問に、「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請した。

また、人々の安心感の回復のためには、そのバッシング対象は、イメージが曖昧で強そうな人や集団であることが求められると指摘されている(釘原, 2014, p.24)。そこで、土木バッシングの批判対象としての労働者への意識として、「あなたは、建設労働者は社会的地位の低い人だと思いますか。/あなたは、建設労働は誰にでもできる仕事だと思いますか。/あなたは、もし自分の子供が建設労働者になるとしたら誇りに思いますか。」という設問に、「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請した。

公共事業に対する根拠のないバッシング意識を測定するために、「あなたは、人間が海や山などの自然を開発すると、何か良くないことが起きるような気がしますか。/あなたは、公共事業への支出を減らせば我が国はもっと良くなると思いますか。」という設問それぞれについて、「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請した。

g) その他意識調査

より広範な意味での「公共」への意識として、「あなたは、私たちの社会が成り立つためには「公共」が必要不可欠だと思いますか。/あなたは、私たち個人は「公共」に対して貢献しなければならないと思いますか。」という設問に、「1: 全くそう思わない~7: とてもそう思う」の 7 件法で回答を要請した。

h) 情報源

意識形成の外的要因を検証するため、「政治にかかわる情報を以下の各メディアからどのくらいの頻度で取得していますか。」という設問を設定し、「テレビ/新聞/ニュースサイト・アプリ/SNS」の 4 つの項目それぞれについて、「全くない/週に 1 日以下/週に 2~3 日程度/週に 4~5 日程度/ほとんど毎日」の 5 つの選択肢から択一形式で回答を要請した。

i) 関係者ダミー

身近に公共事業関係者がいた場合に、賛否意識が影響を受けることを想定して、「あなたの親しい人に、以下のそれぞれの仕事に就いている人はいますか。」という設

間を設定し、「公共的な部門（公務員や公的機関）の仕／建設業関連の仕事」の2つの項目にそれぞれついて、「はい／いいえ」で回答を要請した。

j) 年収

最後に個人属性として世帯年収を尋ねた。日本のサンプルは「200万円未満／200～400万円未満／400～600万円未満／600～800万円未満／800～1,000万円未満／1,000～1,500万円未満／1,500～2,000万円未満／2,000万円以上／わからない／答えたくない」、米国のサンプルは「\$ 9,999 以下／\$ 10,000 - \$ 19,999／\$ 20,000 - \$ 29,999／\$ 30,000 - \$ 39,999／\$ 40,000 - \$ 49,999／\$ 50,000 - \$ 59,999／\$ 60,000 - \$ 69,999／\$ 70,000 - \$ 79,999／\$ 80,000 - \$ 89,999／\$ 90,000 - \$ 99,999／\$ 100,000 - \$ 119,999／\$ 120,000 - \$ 139,999／\$ 140,000 - \$ 159,999／\$ 160,000 以上／わからない／答えたくない」、英国のサンプルは「£ 9,999 以下／£ 10,000 - £ 14,999／£ 15,000 - £ 19,999／£ 20,000 - £ 29,999／£ 30,000 - £ 39,999／£ 40,000 - £ 49,999／£ 50,000 - £ 59,999／£ 60,000 - £ 69,999／£ 70,000 - £ 79,999／£ 80,000 - £ 89,999／£ 90,000 - £ 99,999／£ 100,000 以上／わからない／答えたくない」のそれぞれの選択肢から、択一形式で回答を要請した。

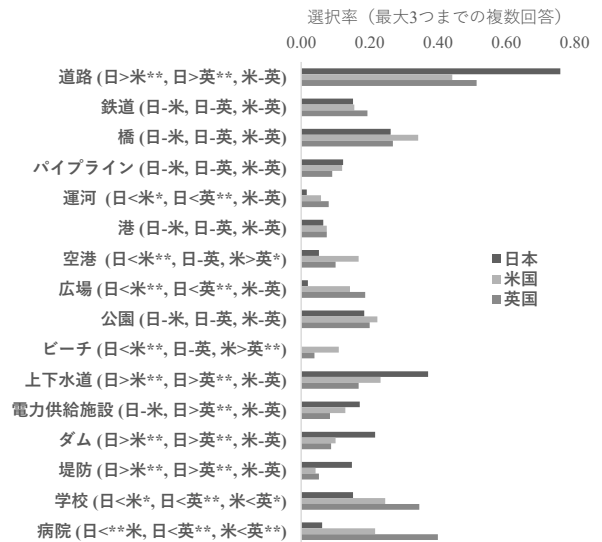
4. 結果

(1) 平均値の3か国比較

a) イメージの比較

まず、3か国の回答者が抱く「公共事業」へのイメージを概観する。図-1に公共事業が何を造るものかのイメージについて、最大3つまでの複数回答で尋ねた際の回答率と、3か国間での多重比較（Tukey の HSD 検定）の結果を示す。

回答に有意差が見られた項目のうち、日本の回答者の選択率が米英両国よりも高かったのは、道路、上下水道、ダム、堤防であり、米英両国よりも低かったのが運河、広場、学校、病院であった。堤防や運河、広場などはそれぞれの国の自然・地理・社会状況による整備数の差によるところが大きいものと思われる。いずれの国にも一定程度整備されているもので大きく差が出たものとして、日本においては道路や上下水道が挙げられる。道路については、2000年代中頃の日本において、日本道路公団の民営化が注目を集め、「道路族」などと揶揄されていたことなどから、道路へのイメージが強いものと想定される。上下水道については、日本のマス・メディア等で、日本の水道水の安全性がとり上げられることの影響と想定される。一方で、学校や病院を造っていることをイメージする人が少ないのは、特に病院について、民間による経営が約8割と大半を占めていることの影響によるも



** : p < .01, * : p < .05

図-1 公共事業が何を造るかのイメージ

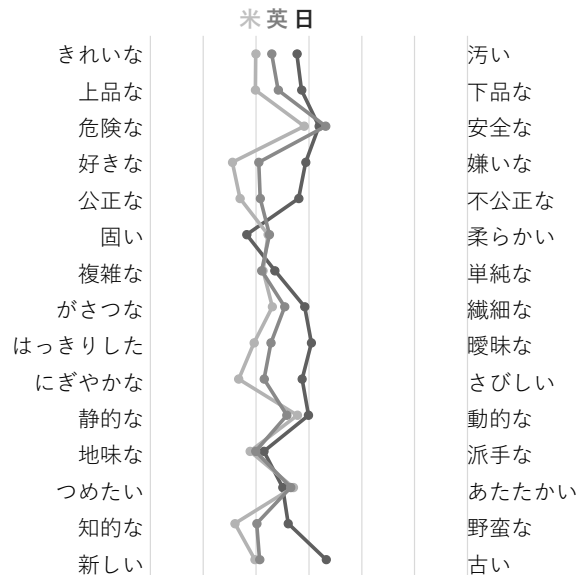


図-2 SD法による公共事業のイメージ

のと考えられ、大半が公的に運営されているイギリスとでは、イメージが大きく異なるものと想定される^{注1)}。さらに、抽象的なイメージとして、SD法によって「公共事業」に対する印象を尋ねた結果を図-2に示す。

図-2より、米国と英国のイメージは似たような傾向を示していることが分かる。日本も似たような傾向を示すものは多いが、特徴的な印象として、他の項目と傾向が逆転する「固い」や、他の項目と比較しても乖離の大きな「古い」という印象が挙げられる。日本の回答者が「固い」という印象を抱く要因は一概には解釈しかねる。「古い」という印象については、日本のマス・メディアにおいて、「従来型の公共事業」という言葉で批判され

ることがあるように、古くてよくないものという印象が根付いていることが想定される。

b) 賛否意識と論点認知

得られた回答項目を集計した値を表-1に示す。表-1には、3か国の違いを比較するために、一元配置分散分析で有意だった項目について Tukey の HSD 検定により多重比較した結果を合わせて示す。

まず、賛否意識に着目すると、日本のサンプルの個人支持意識に比べ、米国および英国のサンプルは、政府の行う公共事業に対して、有意に肯定的な意識を有していることが分かる。さらにこうした傾向は、世間の支持傾向認知やメディアの支持傾向認知、身近な他者の支持傾向認知においても同様であり、日本において公共事業に対して否定的な世論が形成されていることを示唆する結果である。なお、米国と英国を比較した際には、米国のほうが強く肯定的な支持意識を有することが分かる。

続いて、否定的論点の認知に着目する。日本と、米英双方とで有意差が見られた項目として、国民の意見を尊重していない、非効率なやり方をしている、役に立たないものを造っている、という論点において、日本のサンプルが他の2国に比べてネガティブ印象を抱いていることが分かる。一方で、特定関係者の利益のために行われている、および財政を圧迫しているという論点については、有意差は検出されなかった。

肯定的論点の認知に着目すると、日本と、米英双方とで有意差が見られた項目として、雇用を促進する、経済に貢献する、現役世代にとって必要、将来世代にとって必要という論点において、日本のサンプルは他の2国に比べて肯定度合いが有意に低いことが分かる。

以上の支持意識及び論点認知の結果からは、日本におけるサンプルは、米英と比べて、多くのメリットの認識が弱く、多くのデメリットを強く認識しており、総合的な公共事業支持意識が弱いことが明らかとなった。これは、既往研究における報道や Twitter の分析で見られたように、日本は他国に比べ公共事業に否定的な世論を形成している可能性を支持する結果である。

c) その他の変数

表-1に示す通り、その他の大半の変数が、米英にくらべ日本の回答者の数値が小さい（見通し項目以外はそう思わない傾向が強い）。

(2) 相関分析による支持意識との関連分析

次に、個人の公共支持意識とそれ以外の各変数のと、各国の相関係数を、表-1に示す。

a) イメージとの関連

SD 法の回答から得られたイメージと、支持意識の関連について、それぞれの国の相関係数の絶対値の大きなもの3つに着目する。

日本では、公共事業に対して肯定的な意識と関連するイメージとして、「公正な」($r = .394$)、「繊細な」($r = .345$)、「好きな」($r = .325$)の順に、相関係数の絶対値が大きい。米国では、公共事業に対して肯定的な意識と関連するイメージとして、「好きな」($r = .313$)、「安全な」($r = .232$)、「にぎやかな」($r = .183$)の順に、相関係数の絶対値が大きい。英国では、公共事業に対して肯定的な意識と関連するイメージとして、「上品な」($r = .328$)、「公正な」($r = .288$)、「好きな」($r = .255$)の順に、相関係数の絶対値が大きい。

いずれの国においても、「好きな」という感情的なイメージとの関連が強く、日英においては公正さのイメージとの関連が強いことが分かる。

b) 論点認知との関連

各論点のうち、肯定的論点については、日米英のそれぞれにおいて、すべての項目が正の相関で有意であった。つまり、肯定的論点を強く認識するほどに、公共事業を支持する傾向にあることを示している。

一方で、否定的論点については、米英で有意（5%水準）とならなかったものの、日本においてのみ有意となった項目が4つある。そのうち、特定関係者の利益のために行われている、および財政を圧迫しているという2つの論点については、前節における平均値の差においては3国間で有意差は検出されなかったものであるが、個人支持との関係性では、日本においては、それらの論点を強く認識するほどに公共事業に対して否定的な意識を形成していることを示している。さらに、公正でない、非効率であるといった、事業の進め方に関する否定的な論点も、日本においては、公共事業支持意識に影響を与える可能性が示された。

c) 信頼性との関連分析

表-1の対象認知に関する項目と、個人支持との相関係数のうち、公共事業実施主体である、政府、机上、労働者の誠実さおよび信頼性に注目するといずれも有意な相関関係があることを示している。その中でも、米英両国のそれぞれの相関係数については、政府・企業・労働者に対する誠実さも信頼も、相関係数の大小で0.1以下のばらつきであるが、日本の結果では、政府や企業に対する意識との相関係数が、労働者に対する相関係数に比べ大きな値となっている。

すなわち、米国や英国の回答者では、公共事業を支持するか否かは、政府・企業・労働者の区別意識が小さく、ひとくくりとして関係者への認識としての影響が示唆される一方で、日本の回答者では、現場の労働者の影響がないわけではないが、とりわけ政府や企業などに対する不信感が、公共事業全体の支持意識を低下させる要因となっているものと解釈できる。

d) スケープゴーティング理論に基づく分析

表-1 平均値の多重比較と個人支持意識との相関分析

		平均値			多重比較 (Turkey HSD)			個人支持との相関係数 (pearson の r)		
		日	米	英	日米	日英	米英	日	米	英
	個人支持**	4.16	5.15	4.91	<**	<**	>†	-	-	-
	世間支持**	3.80	4.89	4.48	<**	<**	>**	.486**	.639**	.578**
	メディア支持**	3.79	4.78	4.45	<**	<**	>**	.105†	.541**	.322**
	身近支持**	3.86	4.88	4.58	<**	<**	>**	.554**	.610**	.577**
否定的 論点	意見尊重せず**	4.52	3.73	4.00	>**	>**	<†	-.403**	-.255**	-.177**
	関係者利益-	4.53	4.33	4.54	-	-	-	-.406**	.024	.022
	公正でない*	4.41	4.06	4.19	>**	-	-	-.358**	-.050	-.076
	非効率**	4.51	4.11	4.15	>**	>**	-	-.325**	-.083	-.050
	役立たず**	4.09	3.42	3.54	>**	>**	-	-.467**	-.266**	-.257**
	環境破壊**	4.30	3.73	4.19	>**	-	<**	-.250**	-.249**	-.189**
	財政圧迫-	4.14	4.16	4.37	-	-	-	-.251**	.019	-.010
肯定的 論点	快適暮らし**	4.91	5.29	4.92	<**	-	>**	.399**	.338**	.460**
	安全**	4.61	5.06	4.78	<**	-	>*	.516**	.387**	.349**
	雇用促進**	4.41	5.20	5.04	<**	<**	-	.362**	.395**	.418**
	経済貢献**	4.45	5.15	5.06	<**	<**	-	.477**	.472**	.557**
	美しい国土**	4.64	5.12	4.86	<**	-	>†	.439**	.378**	.418**
	現世代必要**	4.63	5.21	5.07	<**	<**	-	.399**	.434**	.492**
	将来世代必要**	4.83	5.18	5.15	<**	<*	-	.445**	.431**	.417**
SD 法 1: 左 ~7: 右	きれいな:汚い**	3.77	2.99	3.30	>**	>**	<*	-.230**	-.132*	-.201**
	上品な:下品な**	3.86	2.99	3.42	>**	>**	<**	-.266**	-.120*	-.328**
	危険な:安全な**	4.19	3.91	4.32	>†	-	<**	.268**	.232**	.245**
	好きな:嫌いな**	3.94	2.55	3.05	>**	>**	<**	-.325**	-.313**	-.255**
	公正な:不公正な**	3.81	2.70	3.08	>**	>**	<**	-.394**	-.163**	-.288**
	固い:柔らかい**	2.82	3.23	3.25	<**	<**	-	-.065	-.032	.200**
	複雑な:単純な-	3.35	3.13	3.11	-	-	-	-.041	-.001	-.008
	がさつな:繊細な**	3.92	3.31	3.54	>**	>**	-	.345**	.033	.057
	はっきりした:曖昧な**	4.05	2.96	3.28	>**	>**	<*	-.193**	-.151**	-.149**
	にぎやかな:さびしい**	3.87	2.67	3.15	>**	>**	<**	-.059	-.183**	-.197**
	静かな:動的な**	3.99	3.78	3.58	-	>**	-	-.042	.142*	.070
	地味な:派手な†	3.15	2.89	2.99	>†	-	-	-.128*	-.099†	-.031
	つめたい:あたたかい-	3.50	3.70	3.65	-	-	-	.265**	.082	.096†
知的な:野蛮な**	3.61	2.60	3.01	>**	>**	<**	-.260**	-.178**	-.245**	
新しい:古い**	4.33	2.98	3.07	>**	>**	-	-.161**	-.181**	-.133*	
対象 認知	政府誠実**	3.27	4.46	4.20	<**	<**	>†	.534**	.381**	.396**
	企業誠実**	3.59	4.43	4.18	<**	<**	>†	.462**	.337**	.300**
	労働者誠実**	4.03	4.64	4.59	<**	<**	-	.283**	.366**	.350**
	政府知ってる**	3.13	4.43	4.14	<**	<**	>*	.176**	.32**	.256**
	企業知ってる**	3.11	3.93	3.81	<**	<**	-	.133*	.219**	.156**
	労働者知ってる**	2.96	4.08	3.75	<**	<**	>*	.093	.200**	.167**
	政府信頼**	3.38	4.51	4.17	<**	<**	>*	.597**	.409**	.352**
	企業信頼**	3.66	4.51	4.25	<**	<**	>†	.512**	.397**	.263**
	労働者信頼**	3.97	4.86	4.59	<**	<**	>*	.355**	.347**	.326**
	労働者地位低*	3.39	3.68	3.63	<†	-	-	-.028	.035	.036
	誰でもできる**	2.94	3.81	3.70	<**	<**	-	-.004	.049	-.022
子ども誇れる**	3.79	4.91	4.73	<**	<**	-	.179**	.209**	.264**	
投影	人生 効率**	4.46	5.24	5.15	<**	<**	-	.078	.322**	.121*
	人生 誠実**	4.62	4.96	4.79	<**	-	-	.059	.315**	.165**
	人生 環境優しく†	4.92	5.17	5.09	<†	-	-	-.147*	.416**	.243**
批判	祟り起こりそう**	4.75	5.21	5.39	<**	<**	-	-.083	.331**	.096†
	公共事業減いいこと-	3.87	3.72	3.69	-	-	-	-.452**	-.126*	-.169**
公共 意識	公共概念不可欠**	4.82	5.45	5.28	<**	<**	-	.393**	.412**	.381**
	公共貢献すべき**	4.28	5.18	5.11	<**	<**	-	.265**	.419**	.359**
不安・ 見通し	生活満足**	4.23	4.94	4.55	<**	<*	>**	.345**	.262**	.312**
	生活 10年見通し**	3.60	5.02	4.48	<**	<**	>**	.331**	.333**	.238**
	経済 10年見通し**	2.98	4.80	4.35	<**	<**	>**	.345**	.416**	.306**
	公共事業 10年見通し**	3.36	4.90	4.39	<**	<**	>**	.364**	.351**	.262**

** : p < .01, * : p < .05, † : p < .10

スケープゴーティングの起因となりうる不安や将来見通しについては、個人支持意識との相関係数はいずれも有意ではあったものの、3 か国の間で大きな違いはみられない。

また、他者への投影による批判について、例えば「効率的に生きたい」という思いが強いほどに、「効率的でない公共事業はダメだ」という意識が醸成されるものと想定され、負の相関が検出されることが想定される。しかし、米英両国においては、むしろ正の相関関係がみられている。負の相関となったのは、日本における「もっと環境に優しく生きるべきだ」という意識と、公共事業支持意識である。つまり、日本の回答者は、環境に優しく生きるべきであり、環境を破壊する公共事業は支持できないと考える傾向にある可能性が考えられる。

こうした関係について、総合的な支持意識との関連では正確に把握できないものと想定されるため、関連する論点認知との相関分析を行った。結果を表-2に示す通り、日本の回答者の結果からは、ここで示す4つの相関係数全てで一定の相関関係があることが示された。一方で、米英両国については、英国の一部で有意な結果となっているが、ほとんどすべての項目で有意差が確認されなかった。

これはつまり、日本の回答者においては、自身の生き方に対して「もっと誠実で／効率的で／環境に優しくありたい」という意識が強いほどに、公共事業は「関係者利益のためである・公正でない／非効率である／環境を破壊する」という否定的な意識が強く、自身の欲求を公共事業という他者に投影して批判している、というスケープゴーティング的心理傾向が存在するという仮説を支持する結果と解釈できる。

5. おわりに

本研究では、日本においてその存在が指摘されていた公共事業に対する逆風世論について、米国および英国との比較から、その特徴を明らかにすることを目的に、アンケート調査を行った。

アンケート項目の平均値の比較結果からは、日本の回

表-2 自信への要求と公共事業否定的論点認知の相関

自分もっと...	公共事業は...	日	米	英
誠実に	関係者利益	.208**	.099	.168**
	公正でない	.234**	.103	.008
効率的に	非効率	.185**	.017	.000
環境に優しく	環境破壊	.289**	-.013	0.84

**: $p < .01$, *: $p < .05$

答者が、米英に比べて、公共事業に対して否定的であることが示された。さらに、個別の論点のうち否定的な論点に着目すると、「人々の意見を尊重していない」「非効率である」「役に立たないものを造る」という論点について、日本の回答者は米英両国よりも否定的な意識を抱えていることが明らかとなった。肯定的論点に着目すると、「雇用促進」「経済活性化」「現世代にとって必要」「将来世代にとって必要」という論点について、日本の回答者は米英両国よりもメリットとしての認識が弱いことが明らかとなった。

個人支持意識と論点認知の相関分析から見られた日本の特徴として、「特定関係者の利益のために行われている」「公正でない」「非効率である」「役に立たないものを造る」「財政を圧迫する」といった否定的論点の認識が、公共事業に対する支持意識に影響していることが示唆された。

さらに、事業関係者に対する意識との相関分析からは、米国や英国の回答者では、公共事業を支持するか否かは、政府・企業・労働者の区別意識が小さく、ひとくくりにして関係者への認識としての影響が示唆される一方で、日本の回答者では、現場の労働者の影響がないわけではないが、とりわけ政府や企業などに対する不信感が、公共事業全体の支持意識を低下させる要因となっていることを示唆する結果が得られた。

最後に、スケープゴーティング的心理傾向を仮説として指定した場合に、日本の回答者においては、自身の生き方に対して「もっと誠実で／効率的で／環境に優しくありたい」という意識が強いほどに、公共事業は「関係者利益のためである・公正でない／非効率である／環境を破壊する」という否定的な意識が強く、自身の欲求を公共事業という他者に投影して批判している、という仮説を支持する結果が得られた。

以上の結果より解釈すると、日本における公共事業バッシング意識の改善のためには、個別の論点として、「非効率さ」や「役に立たないものを造る」という否定的なイメージの是正や、米英2か国と比べても特に低い政府や企業への信頼の回復が重要であることが示された。また、日本においては、個人の不満を他者に投影して批判することで留飲を下げる、スケープゴーティング的心理により、公共事業バッシングが生じている可能性も示されたため、個人の問題とは切り離れた上での理性的な議論もまた求められよう。

なお、本研究は、3か国の首都の都市住民を対象としたアンケート調査に基づくものであり、地方住民を含む対象者の拡大や、各国のインフラ整備の詳細な状況を踏まえた上での検証が求められよう。

謝辞：本研究は JSPS 科研費 JP19K15117 の助成を受けた

ものです。ここに記し謝意を表します。

NOTES

注1) 厚生労働省：諸外国における医療体制について：
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/005_3.pdf (2022.03.06 参照)

REFERENCES

- 1) 田中皓介, 神田佑亮：公共事業を巡る各種言葉のイメージ変化要因に関するパネル分析, 土木学会論文集 F4 (建設マネジメント), Vol.70, No.4, pp.I_13-I_25, 2014. [Tanaka, K. and Kanda, Y.: Panel data analysis of the image change factors over public works, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. F4 (Construction and Management), Vol.70, Issue.4, pp.I_13-I_25, 2014.]
- 2) 田中皓介, 中野剛志, 藤井聡：公共政策に関する大手新聞社説の論調についての定量的物語分析, 土木学会論文集 D3, Vol.69, No.5, pp.353-361, 2013. [Tanaka, K., Nakano, T. and Fujii, S.: Analysis of the tone of newspaper editorials about public works, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management), Vol.69, Issue.5, pp.I_353-I_361, 2013.]
- 3) 田中皓介, 神田佑亮, 藤井聡：公共政策に関する大手新聞社報道についての時系列分析, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol. 69, No. 5, pp. I_373-I_379, 2013. [Tanaka, K., Kanda, Y. and Fujii, S.: Time series analysis of the trend of newspaper reports about public works, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management), Vol.69, Issue.5, pp.I_373-I_379, 2013.]
- 4) 田中皓介, 藤井聡：公共政策を巡る新聞報道における情報の取捨選択に関する実証的分析～米国大統領一般教書演説を事例に～, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol. 72, No. 5, pp. I_277-I_282, 2016. [Tanaka, K. and Fujii, S.: Analysis of selection bias in Japanese major newspapers over state of the union address, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management), Vol.72, Issue.5, pp.I_277-I_282, 2016.]
- 5) 田中皓介, 坂本大河, 柳沼秀樹, 寺部慎太郎：Twitter のいいね数に着目した公共事業を巡る意識の日米比較分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.76, No.5, pp.I_267-I_279, 2021. [Tanaka, K., Sakamoto, T., Yaginuma, H., Terabe, S. and Kang, N.: Comparative analysis of attitudes toward public works focused on tweet data between Japan and the united states, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management), Vol.76, Issue.5, pp.I_267-I_279, 2021.]
- 6) Sakamoto, T., Tanaka, K., Terabe, S., Yaginuma, H. and Kang, N.: Comparative Analysis of Press Coverage on Public Works in Japan and The United States, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, vol.13, pp.414-426, 2019.
- 7) 矢野晋哉, 藤井聡, 須田日出男, 北村隆一：土木事業に関する賛否世論の心理要因分析, 土木計画学研究・論文集, Vol.20, No.1, pp. 43-50, 2003. [Yano, S., Fujii, S., Suda, H. and Kitamura, R.: An analysis of psychological factors that affect attitudes toward public works projects, Infrastructure planning review, Vol.20, pp.43-50, 2003.]
- 8) 水野絵夢, 羽鳥剛史, 藤井聡：公共事業に関する賛否世論の心理要因分析, 土木計画学研究・論文集, Vol. 25, No. 1, pp. 49-57, 2008. [Mizuno, E., Hatori, T., and Fujii, S.: An analysis of psychological factors influencing people's attitudes towards public works, Infrastructure planning review, Vol.25, pp.49-57, 2008.]
- 9) 釘原直樹 (編著)：スケープゴートイングレー誰が、なぜ「やり玉」に挙げられるのか, 有斐閣, 2014. [Kugihara, N.: Scapegoating -dare ga naze yaridama ni agerarerunoka-, Yuhikaku, 2014.]本間仁, 安芸皓一：物部水理学, pp. 430-463, 岩波書店, 1962. [Honma, S. and Aki, K.: *Mononobe Suirigaku*, pp. 430-463, Iwanami Shoten, 1962.]

(Received March 6, 2022)

(Accepted ????, 2022)

COMPARISON OF ATTITUDES TOWARD PUBLIC WORKS IN JAPAN, THE US AND THE UK

Kosuke TANAKA